

本日、第五十七回愛育班員全国大会に出席し、各地から参加された愛育班員、並びに関係の皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

これまで長年にわたり、地域の人々が安心して暮らせるよう献身的に活動してこられた愛育班員と、保健師として人々の健康を守ってこられた育成者とが協力し合い、子育てを支援し愛育班の活動を続けてこられたことに深く敬意を表します。また、本日表彰を受けられる皆さまに心からお祝い申し上げます。

恩賜財団母子愛育会は、昭和八年十二月、上皇陛下のご誕生にあたり、母と子が健やかに成長することを願われた昭和天皇の思し召しにより、翌年三月に設立されました。その後、各地の愛育班は、地域が抱えるさまざまな課題に取り組みられました。そして近年は、子どもを育てる家族のサポートをはじめ、人々の健康づくりや声がけなどを通して、幅広い年齢層の人々が交流する機会をつくる活動もおこなっています。

これまで母子愛育会の総裁としていくつもの市や町を訪問してまいりました。どちらを訪ねても、愛育班の皆さまが心を込めて準備し、開催されたイベントで和やかに交流する人々に出会うことができました。また、愛育班員方と保健師方は、ご自分たちの活動について生き生きと語ってくださいました。そのお姿から力をいただき、学ぶこともありました。

二ヶ月前に訪れた山梨県では、今年六十周年を迎えた山梨県愛育連合会と保健師の方々とお会いしました。子どもやその家族を取り巻く環境が変化する中で、関係者が力を合わせ、支援を必要とする人々に寄り添った活動を続けてこられたお話を伺い、心強く思いました。また、中央市子育て支援センターでは、中央市の愛育班の皆さまと一緒にハンドベルを演奏し、ベビーサロンに集まった子どもたちやその家族と手遊び歌を楽しみました。会場はベルのやわらかな響きに包まれ、笑みを交わしてすごした時間は心に残るひとときになりました。

本日は、式典の後に、映画『じよっぱり 看護の人花田ミキ』が上映されます。主人公の花田ミキさんは、戦時中は従軍看護婦も経験し、戦後は故郷の青森県の看護教育や保健行政に活躍されました。数多くの看護婦を育て、県の保健婦を町や村に派遣する制度を確立し、助産婦と保健婦が協力する取り組みで乳児死亡率が大きく改善したと伺っています。厳しい環境におかれた地域の人々、母親と子どもとの命と健康を守るために、ひたむきに努力された花田さんの言葉や行動から、皆さまはさまざまなことを感じられることでしょう。

本大会に出席されている皆さまをはじめ、全国の愛育班活動に携わる関係者が、よりよい活動の充実に向けて力を尽くされ、「愛育の心」がこれからも受け継がれていくことを心から願い、大会に寄せる言葉といたします。